

市民参加型ワークショップ 教育理念を考える

5月20日と21日、「真庭市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定にかかる市民参加型のワークショップが開かれました。20日は落合総合センターで一般や教育関係者を、21日は真庭高校落合校地で高校生を対象に開かれ、約1000人が参加。両日とも（一社）国立大学協会専務理事の山本健慈さんの基調講演の後、参加者はグループに分かれ「人生を応援すること」「人と人とのつながり」「学校生活で気になっていること」などについて熱心に意見を交わしました。



高校生のワークショップ



一般や教育関係者のワークショップ

5月12日、勝山文化センターで真庭市立中央図書館設計についての説明会が行われました。市担当者が計画案を基に、新しい図書館の5つのコンセプトなどを説明。参加者は蔵書やキッズスペースなどについて活発な意見交換を行いました。中央図書館の設計は、プロポーザル方式で公募し、最優秀者に青木茂建築工房（大分市）を3月に選定。現勝山振興局庁舎を転用し、平成30年度の開館に向けて準備を進めています。

市立中央図書館設計説明会 期待膨らむ新図書館



コンセプトのポイントを説明する市担当者



看板を掲げる辻英明岡山県立大学長(左)と太田市長

地域創生コモンズまにわ開所 地域連携の拠点開設

4月25日、勝山振興局で地域で活躍できる人材育成を目指す県内の大学や自治体、企業などの連携組織「おかもまCOC+推進協議会」（代表・県立大）の初の地域連携活動拠点「地域創生コモンズまにわ」の開所式が行われました。学生が地域ボランティアや産学連携の活動の拠点として使用するほか、テレビ会議システムを使った県立大などによる地域向けの公開講座などが計画されています。



市政に関する動きの一部を紹介します

4/26 絶滅危惧種カワシンジュガイを守る

川上こども園の園児たちが、蒜山の天谷川でカワシンジュガイを保護するためにアマゴを約150匹放流しました。園児たちはバケツに入ったアマゴをそっと川に放し、パイパイと手を振って見送っていました。



5/11 地場産業に理解を深めて

檜呂小学校で全校児童13人と檜呂、余野幼稚園の5人が総合学習の一環で紙幣の原料になるミツマタを植栽しました。栽培から加工までの流れを学び、地場産業に対する理解を深めてもらおうと企画されました。



市長室から こんにちは!

災害への備えを!

日本は、地殻変動により国土が形成されているため地震が頻発し、山が多く平地が少ないため、土砂災害や風水害などが多い国であります。一方、自然が豊かで、春夏秋冬に美しい姿を見せてくれます。有名な地質学者寺田寅彦は、そんな日本を「厳父の自然、慈母の自然」と絶妙な表現で言い表しています。

私たちは、この素晴らしさとともに厳しい現実を受け止め、将来に渡って災害に強い国づくり、地域づくりをしていく必要があります。

この6月以降、梅雨、台風と災害が発生しがちな季節を迎えますし、地震も活動期に入ったと言われています。真庭は近年大災害に遭遇していないからこそ、常日頃から警戒心を怠らず、市民の皆さんとともに安全安心な真庭を築いてまいりましょう。



委員長職務代理者
中井 靖典 氏
(76歳・月田)



教育委員長
小谷 真人 氏
(73歳・久世)

平成28年3月第1回真庭市議会定例会(2月23日)に、任期満了に伴う教育委員の人事案件が提出され、中井靖典氏が再任されました。5月12日には、教育委員長らの任期満了に伴い、第6回教育委員会を開催。教育委員長に小谷真人委員が、委員長職務代理者に中井靖典委員がそれぞれ選任されました。小谷委員は7回目の就任、中井委員は5回目の就任。役職の任期は平成28年5月21日から1年間です。

真庭市教育委員人事 委員長と職務代理者を選任



集落で学んだことをまとめる塾生

5月21日と22日、中和地域を中心に、昔から紡いできた暮らしや地域資源を学びながら、これからの農山村と新たなライフスタイルを模索していく「真庭なりわい塾」の入塾式と第1回の講座が開かれました。塾には県内や関西などから25人が参加。21日は入塾式の後、参加者が4つの集落に分かれて暮らしや歴史を学ぶ、22日は各集落で学んだことをグループごとに発表しました。講座は来年1月まで全9回開かれます。

真庭なりわい塾入塾式 農山村から生き方を考える